

発刊に当たり

北海道特別支援教育振興協議会長 大石 正 行
(鶴居村長)

学校管理職の皆様には、各地域や各学校においてリーダーシップを発揮し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちの教育の充実・発展のため、更には北海道の特別支援教育における課題解決に向け、様々な取組を進めていただいていることに心から敬意を表します。

さて、近年子どもの数が減少し、道内の市町村では学校の統廃合が進み、小学校と中学校がそれぞれ1校のみの自治体も多く存在するという状況です。

一方で、特別な教育的支援を必要とする子どもの数は増加し続けており、学校管理職の皆様の特別支援教育に対する関心は高いと承知しています。

こうした中、特別な教育的支援を必要とする子どもたちが地域で学び、成長し、次世代の地域を支える担い手となるよう、市町村や各学校において取り組んでいくことが期待されております。そのことが地域を活性化させるとともに、障がいのある人となない人が地域の中で共に生活する共生社会の形成につながると考えています。

その実現に向けては、障がいの有無にかかわらず、全ての子どもたちが互いに関わり合いながら共に学び、達成感をもちながら充実した学校生活を過ごすことができるよう、学校教育の充実を図ることが重要であり、本ハンドブックの内容を学校経営の参考にし、自校の先生方の支援の充実、ひいては支援を必要とする子どもたちの笑顔につなげていただくことを願っております。

私ども北海道特別支援教育振興協議会としましても、引き続き、市町村相互の連携はもとより、国に対して適切な施策の実施を働き掛けるなどして、障がいのある子どもの自立と社会参加を見据えた各学校の取組をしっかりサポートしてまいります。

また、市町村の保健・福祉部局等と教育委員会が連携して地域の支援体制づくりを促進するなど、幼児期から学校卒業後までの切れ目のない支援の充実に努め、障がいのある人もない人も、共に地域で生活する仲間として人権を尊重し、安心して暮らせる地域社会を目指していきたいと考えています。

結びに「小・中学校の管理職のための特別支援教育ハンドブック」を発刊するにあたり、御尽力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの更なる教育の充実を御祈念申し上げ、御挨拶といたします。